



No.93 沈黙の日本人 どこか教育が間違っている？



(写真:ウーマンエキサイトHPから)

小学校の校庭からは子どもたちの底抜けに明るい声が聞こえてきて迷惑施設とされるほど賑やかです。教室でもはい！はい！と手を上げて、われ先に自分の意見を言おうとする風景は普通ですよね。グループ作業をさせるとうるさいぐらいただし、屈託ない質問で先生を困らせたりします。ところが…

大学の講義は”シ～ン”、質問のある人？”シ～ン”、教員から学生に質問しても、分かった人？”シ～ン”

もちろん授業内容にも教員にもりますよ。だけど何の反応もない空間の居心地の悪さ、気まずい時間の耐えがたさは大学に限りません。大人の講演会にはサクラが用意されていることもあります。

外人の多い国際会議や語学学校の教室でそんな気まずさを経験することはまずありません。司会者は洪水のような質問を捌くのに苦労しているし終了時間無視の発言は当たり前。語学学校では喋れなくても自分の聞きたいことをしつこく聞く学生がいますが、日本人にはあまり見ませんね。

知らない人の中で生きていくにはコミュニケーションが絶対必要なんだけども、日本人にはその切実さがないというか、以心伝心のクローズドなコミュニティを作るのに熱心で、オープンな空間での発信には沈黙してしまう。



谷口博文の政策イノベーション

Date :2023年6月11日

年齢が上がるにつれ発信力が下がる日本の子どもたち。学ばなきやならない知識技能の山の前で、先生たちも落ちこぼれを出さないよう必死です。先生の言うことをよく聞いて正解を探す作業に没頭していると、意見を述べたり質問を考えたりする暇はありません。喋りたい子や異能の子も実際大勢いるのですが、それを評価されることも生かされることもなく、みんなと同じ行動をとる子になっていく。

いま世界に通用する日本人、世界に発信できる人材といえば、野球、テニスなどスポーツ選手、ピアニストなど音楽、エンターテインメントの世界。たぶん子供の頃から特別で、他の人とは違う育成システムの中でその才能をのびのびと伸ばすことができたのではないかと思います。

ところが大学入試というレールの上で全国一律同じ能力が求められる世界に閉じ込めてしまうと、もちろんその能力で勝負する人も出るけど、その他大勢は本来一人一人が持っている個性的な能力を伸ばせないで、自己肯定感もないまま無気力な学生となってしまうような気がします。

政府はいま「個別最適の学び」を掲げ、アクティブラーニングなどを取り入れた授業を推進しています。誰一人取り残さないという理念は掲げているけれども、現場はなかなか変わらない。でもたとえば不登校や特別支援学校の中には、他の子と同じようにはできないけれども特別に光る才能を発揮するという子がいます。もしそんな子のための教育メソッドが一般的に確立できたら、それこそすべての子どもたちの福音になるのではないかと思います。